

テックドクターによる現地診断 (宮崎市大字内海)

<概要>

- ・令和3年9月16日、台風14号に伴う豪雨により、大規模な斜面崩壊が発生。
- ・国土交通省が応急復旧を実施。現在、宮崎県が本復旧工事中。
- ・事前通行規制基準として連続雨量150mmを運用しているが、これまでの豪雨経験(200mm以上を3回)で変状が無い場合、規制基準の緩和に関して意見を伺った。
- ・開催日:令和6年2月21日、22日
- ・参加者:TEC-Doctor(宮崎大学 横田名誉教授、末次教授、福林准教授、神山助教)、宮崎河川国道、宮崎維持出張所、宮崎県



【TEC-Doctorの見解】

- ・災害土砂撤去後150mm以上の降雨を3回経験しているとはいえ、上部斜面の対策工完了箇所において1年間経過を見ることが安全側だと考える。ただし、遠隔監視による情報把握が可能であるため、雨量による交通規制の解除は問題ないと考えます。
- ・ただし、仮設防護柵が下部斜面施工中も存在することで安心感があると考えているので、工事完了後に宮崎県が仮設防護柵の撤去を考えているのであれば、その時点で再度、観測データの結果も踏まえて議論をしたい。

現行:連続雨量150mm を解除